

2024年3月15日

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ

## グリーンファイナンスフレームワークの策定について

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤<sup>かめざわ</sup> 宏規<sup>ひろのり</sup>、以下 MUFG）は、今般、「MUFG 本館<sup>[1]</sup>」を建設するにあたり、建設関連資金を資金使途とした「グリーンファイナンスフレームワーク<sup>[2]</sup>」（以下 本フレームワーク）を新たに策定し、本日付で第三者評価機関である株式会社日本格付研究所（以下 JCR）より本フレームワークに対するセカンド・パーティ・オピニオン<sup>[3]</sup>を取得しました。

MUFG は、「世界が進むチカラになる。」というパーパスのもと、社会、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決に取り組んでいます。資金調達においても、金融サービスの提供を通じて持続可能な環境・社会の実現に貢献することを目的に、2016年9月に「グリーンボンドフレームワーク」を策定した上、2019年10月には「グリーン/ソーシャル/サステナビリティボンドフレームワーク」を策定しました。これまでに総額4,900百万米ドル相当のグリーン/ソーシャル/サステナビリティボンドを発行し、調達資金を環境・社会課題の解決に資する融資に充当するなど ESG の取り組みを強化しております。

本フレームワークに基づき調達された資金は、今後、MUFG の連結子会社である株式会社三菱 UFJ 銀行に対する融資を通じて、「MUFG 本館」の建設関連資金に充当することを予定しております。

「MUFG 本館」は、全てのステークホルダーに対し、開かれ、つながることで MUFG の象徴となることを目指しており、SDGs やカーボンニュートラルへの対応として、持続可能な社会の実現や環境負荷の低減に積極的に貢献する建築計画となっています。

また、本フレームワークは、第三者評価機関である JCR よりセカンド・パーティ・オピニオンを取得しており、国際資本市場協会（ICMA：International Capital Market Association）が公表する「グリーンボンド原則 2021（GBP）<sup>[4]</sup>」と、ローンマーケットアソシエーション（LMA）、アジア太平洋地域ローンマーケットアソシエーション（APLMA）、ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション（LSTA）による「グリーンローン原則 2023（GLP）<sup>[5]</sup>」の基準に該当するものと認められております。

MUFG は、グリーンファイナンスによる資金調達を行い、持続可能な社会の実現・環境負荷低減に寄与する「MUFG 本館」を創り、グループ一体となってお客さまや地域・社会をはじめとする全てのステークホルダーに貢献してまいります。

- [1] 「MUFG 本館」については下記リンクをご参照ください。  
<https://www.bk.mufg.jp/news/news2024/pdf/news0315.pdf>
- [2] グリーンファイナンスフレームワークについては下記リンクをご参照ください。  
[https://www.mufg.jp/ir/fixed\\_income/greenbond/framework\\_for\\_mufgbldg/index.html](https://www.mufg.jp/ir/fixed_income/greenbond/framework_for_mufgbldg/index.html)
- [3] JCR によるセカンド・パーティ・オピニオンについては下記リンクをご参照ください。  
<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>
- [4] グリーンボンドの透明性の確保、情報開示及びレポーティングを推奨し、市場の秩序を促進させることを目的に、国際資本市場協会（ICMA）が策定した自主的ガイドライン。
- [5] ローンマーケットアソシエーション（LMA）、アジア太平洋地域ローンマーケットアソシエーション（APLMA）、ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション（LSTA）が策定したグリーンローン借入に関する自主的ガイドライン。

以 上

|  |
|--|
| <p>ご注意：この文章は、株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループによるグリーンファイナンスフレームワーク策定とセカンド・パーティ・オピニオン取得に関して一般に公表するための発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。</p> |
|--|